



〈雑録〉伊藤氏ノ新貨幣案二就テ

海老原, 竹之助

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 16(3):483-494

(Issue Date)

1914-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052180>



伊藤氏ノ新貨幣案ニ就テ

商學士 海老原竹之助

一介ノ銀行員トシテ堆高キ簿書ノ裡ニ算盤ト「ペン」トナ友トシテ其日々々々ヲ送ツテ居ル予ハ近來我國ニ於テ喧傳セラレテ居ル許リデナク歐米ニ於テモ頗ル矢釜シイト聞ク物價問題ヤ貨幣問題ニ就テハ云ハバ全クノ門外漢デアツテ從ツテ學者先覺ノ明論卓說ヲ拜聽スルノ光榮ヲコソ得レ、敢テ自ラ筆ヲ執ツテ陣頭ニ進ム程ノ勇氣ト資格トナ有シテ居ル者デハナイガ平素カラコレヲノ問題ニ關スル諸先覺ノ高見ヲ面白ク拜見シテ居ル許リデナク、近來ノ如ク様大ノ筆ヲ揮フ者モアレバ秃筆ナ呵スル者モアルト云フ混戦ノ狀態ヲ見テ益々興味ヲ感ズルニ至ツタ、折カラ偶々本誌一月號ニ載セラレタル伊藤増太郎氏ノ「將來ノ貨幣」一篇ヲ讀ムニ及ンデ多少首肯シ難イ所ガアルノミナラズ洵ニ解ス可カラズトサヘ思ハル、二三ノ點アルヲ發見シタカラ茲ニ卑見ヲ具シテ之レヲ公ニシ、伊藤氏ノ再考ヲ煩ハスト同時ニ讀者ト共ニ此新貨幣案ノ價值ヲ批判シタイト思フ、但シ「或ル意見ノ誤ツテ居ルト云フコトハ直チニソレニ反對スベキ理由トナラナイ」トニーチエトカ云ツタト云フ如ク予ハ全然同氏ノ說ニ反對ダト云フ譯デハナイ。

一 世界的新貨幣コソ望マシケレ

儲テ予ハ新貨幣案ニ對スル根本問題ノ批評ニ移ルニ先チ同氏ノ所論中、洵ニ首肯スベカラザル一
二ノ點ヲ指摘シテ見タイ、而シテ其第一ハ同氏ガ『政治的ニモ經濟的ニモ將タ愛國的精神ニモ最も
強固ニ團結シタル一國々内ニ適應シ得ベキ貨幣制度ヲ立案』(一三頁以下)スルニ止メ、何ガ故ニ世界的
ニ適應シ得ベキ新貨幣ニ就テ立案セザルヤノ點デアル。何人モ知ル如ク現今各國ノ貨幣ハ洵ニ區々
トシテ歸一スル所ガナイ、金貨國モアレバ銀貨國モアル、銀貨國ヨリ更ニ金貨國ニ移ラントスル過

度時代ノモノモアル。金貨國ノ中ニモ日本ノ圓、獨逸ノ麻克、佛國ノ法、米國ノ弗貨ノ如ク十進法ヲ以テ計算シ得ルモノモアレバ英國ノ磅、志、片ノ如キ、印度ノ留比、(アンナ)、(パイ)ノ如キ十進法ニ依ラザルモノモアル、更ニ隣邦支那ノ幣制ニ至リテハ混沌トシテ到底一律ニ論ズルコトハ出來ナイ若シ貨幣、紙幣其他諸證券ノ發達ニヨル計算授受ノ簡便ナルモノガ現時ノ經濟的大發展ヲ招キタル原因ノ一ナリトスレバ貨幣ノ世界的統一ニヨル利便、從ツテ起ル經濟的大發展ハ實ニ驚膽張目ニ値スルカモ知レナイ、手近ナ一例ヲ舉グレバ現時我國ノ唯一ノ對外金融機關トモ云フベキ橫濱正金銀行ノ如キ現在七八百人ノ行員ヲ使用シテ居ルケレドモ其大部分ハ何レモ貨幣ノ換算ニ多大ノ勞力ヲ費ヤシテ居ルモノデアル、若シ貨幣ノ世界的統一ガ出來タラ其行員ノ五分ノ一位ハ解僱シテモ現今ト同ジ量ノ仕事ヲヤルニハ差支アルマイト思ハレル、現ニ予ノ如キモ毎日此貨幣換算ノ不便ニ苦シメラレテ居ル一人デアル、サレバ今後若シ新貨幣ニ就テ立案スルモノガアツタラ世界的ニ適應シ得ルモノガ望マシク、少ナクトモ世界的ニ適用スル目的ヲ以テ立案セラレンコトヲ望ンデ居ツタ、然ルニ伊藤氏ハ惜イ哉「一國國內ニ適應シ得ベキ貨幣制度ヲ立案」セント標榜シ、初メニ此問題ヲ「解決センニハ須ラク從來ノ習慣ヤ國際的協約等ニ關係ナク……」(一三頁)ト云ヒナガラ尙ホ「一般社會ノ習慣及經濟界ニ大變革ヲ惹起シ混亂ノ狀態名狀スベカラザルニ至ル」(一六頁)ヲ憂ヘテ我國現在ノ幣制ニ倣ヒ、金壹圓ノ五分ノ一ヲ原基ト定メ之レヲ圓ト呼ブトシタルハ其眼光餘リニ狹クシテ頗ル遺憾ニ堪ヘザル次第デアル、即チ同氏所論中ノ些々タル矛盾ハ別トシテモ第一其立案ノ主旨ニ

對シテ首肯シ難イト云ハ子バナラナイ。

二 現在ノ貨幣制度ヲ以テ貨幣交換法ナリトスルハ

誤謬ナリト云フハ誤謬ナリ

次ニ予ノ首肯シ難イノハ現在ノ貨幣制度ヲ以テ物々交換ト何ノ選ブ所ガナイト云フ氏ノ說デアル
換言スレバ現在ノ貨幣制度ヲ以テ貨幣交換法ナリトスルハ誤謬ナリトスル氏ノ說ノ却ツテ誤謬デハ
ナイカト云フ點デアル、即チ氏ハ物々交換ノ不便ヲ說キ、二三學者ノ說ヲ一笑ニ附シ去ツテ後、左
ノ如ク云ツテ居ル。

吾人ハソノ何レタルヲ問ハズ議論ノ主題タル貨幣ノ實質ヲ沈思熟慮シテ研究セバ忽チ貨幣ノ形
式ニ囚ハレタル議論ナルヲ了解スルニ至ルベシ、何トナレバ金ト云ヒ銀ト云ヒ將タ珠玉貝殻布帛
錫環椰子實ト云フモ一種ノ貨物ヲ指スニアラズヤ、サレバ現今ノ貨幣ト物トノ交換ハ貨幣交換法
ナリ、古ヘノ不便ナル物ト物トノ交換ハ物々交換法ナリト區別スルハ甚ダ謂レナキコトナリ、又
信用取引ト云フモ其基礎ヲカ、ル貨幣ノ上ニ置キテ貸借關係ノ決濟ヲナサル、ナラバ物々交換法
ト何等選ブ所アラズ、唯一時ソノ決算ヲ延期セルヲ異ニスルノミナリ。(一一四―一五頁)

之レニ依リテ見レバ同氏ハ金モ銀モ尙一種ノ貨物ナルガ故ニカ、ル貨物ヲ以テ作リタル現今ノ貨
幣ト物トノ交換ハ貨幣交換法ニアラズシテ物々交換デアル、又信用取引ナルモノモ其基礎ヲカ、ル
貨幣ノ上ニ置クガ故ニ物々交換ト何ノ選ブ所ナシト主張セラル、様デアル。信用取引ガ物々交換ト

果シテ何ノ選ブ所ナキヤ否ヤハ姑ク措キ、金モ銀モ尙一種ノ貨物ナルガ故ニカ、ル貨物ヲ以テ作リタル現今ノ貨幣ト物トノ交換ハ貨幣交換法ニアラズシテ物々交換ナリトナス説ニハ今直チニ贊同スルコトハ出來ナイ。

往時行ハレタ物々交換トハ主トシテ消費サルベキ物ト物トノ交換デアツタ、換言スレバ直接消費ノ目的ヲ以テ物ト物トヲ交換シタノデアル、例ヘバ自己ノ餘リアル所ノ酒ヲ出シテ他人ニ餘リアル肉ト交換シ、自己ハ肉ヲ食ツテ飽腹シ、他人ハ酒ヲ飲ンデ酔ヲ買フガ如キデアル、時ニ其一度得タル肉ヲ更ニ他人ニ與ヘテ麥米等ト交換スルコトガアツテモソレハ變則デアツテ物々交換本來ノ目的ハ消費デアル。然ルニ現時ノ貨幣ハ云フ迄モナク交換ノ媒介ヲナスモノデアツテ消費ノ用ヲナスモノデハナイ、且ツ多クノ文明國ニ於テハ一定ノ貨幣法ノ定ムル所ニ從ツテ鑄造セラレ、其内容ノ如何ヲ問ハズ法律ノ力ヲ以テ一定ノ價值ヲ賦與セラル、モノデアルカラ例令之レヲ作ツタ材料タル金銀ガ一種ノ貨物デアルニセヨ、一旦鑄造セラレテ貨幣トナルヤ、珠玉貝殼等ガ貨物デアルト云フト同ジ意味ニ於テ貨物デアルト云フコトハ出來ナイ、加之、貨幣ハ貨幣トシテハ常ニ一定ノ價值ヲ有シテ居ル、其作ラレタル材料ノ價值ガ常ニ變動シテ止マナイニセヨ、其貨幣トシテノ價值ハ不變デアル、例ヘバ我が五圓金貨ハ金相場ノ如何ニ拘ラズ常ニ五圓トシテ轉輸流通スルガ如キデアル(但シ金相場ノ變動ニ伴ツテ金ノ相對的價值ノ變動スルハ勿論デアル)、之レヲ一般貨物ノ市價ノ常ニ變動シテ止マナイニ比スレバ珠玉貝殼等ト現時ノ貨幣トハ同ジ意味ニ於テ何レモ一種ノ貨物デアルト

ハ云ヒ得ナイ、吾人ハ此意味ニ於テ貨幣ハ貨物ニアラズト斷言シタイ、學者ハ亦カ、ル意味ニ於テ物々交換ノ世ト貨幣經濟ノ時代トヲ區別シテ居ルノダト思フ、實ニ貨幣ハ交換ノ媒介デアル、其直接消費サルベキモノト交換スル以前、先ヅ交換ノ媒介タル貨幣ト交換シ、更ニ之レヲ以テ所要ノ貨物ト交換シ以テ消費ノ目的ヲ達スルノガ即チ貨幣交換法ト云フノデハアルマイカ、サレバ、現在ノ貨幣制度ノ下ニ於ケル貨幣ト物トノ交換ヲ以テ貨幣交換法ナリトスルハ恐ラクハ誤謬デハアルマイ若シ同氏ニシテ其然ラザルヲ辯ズルガ爲メニハ更ニ有力ナル説明ト秩序アル理論トヲ述ブルノ必要ガアルト思フ、本誌一月號所載ノ分ダケニテハ所論餘リニ簡ニシテ詳細ヲ盡シテ居ナイ、從ツテ未ダ吾人ヲ首肯セシムルニハ充分デハナイ、是レ予ガ同氏所論ノ解スベカラズトナス第二ノ點デアル、況ンヤ信用取引ヲモ其基礎ヲカ、ル貨幣ノ上ニ置クノ故ヲ以テ直チニ物々交換ト何等選ブ所アラズト斷言スルニ至リテハ少シク早計ノ譏ヲ免レマイト思フ。

三 薄弱ナル新貨幣ノ基礎

緒テ之レヨリ本論ノ根本問題タル新貨幣ノ基礎ニ關スル批評ニ移リタイ、而シテ題シテ「薄弱ナル新貨幣ノ基礎」ト云フカニハ予ガ伊藤氏ノ說ニ全然賛同スルモノデナイコトハ明カデアル。

卒直ニ云ヘバ伊藤氏ノ所論ニハ矛盾モアレバ撞着モアル、議論ノ前後シタ所モアレバ説明ノ詳カナラザル所モアル様デアル、然シ氏ガ新貨幣ノ基礎トスル所ハ要スルニ、一定時ニ於ケル一定重量ノ金ガツノ當時有スル購買力ヲ以テ貨幣ノ原基トス。(一一八頁)

ト云フニアラシイ、而シテ之ヲ説明シテ左ノ如ク云フテ居ル。

タトヘバ金一匁ノ五分ノ一が大正二年一月一日白米五升牛肉五百匁、鹽十貫匁ト交換シ得ルトセバ是レ金一匁ノ五分ノ一ガソノ當時有スル購買力ナレバ是ヲ原基ト定メ、名稱ヲ圓トシテ貨幣ノ單位トセントス。(二一八頁)

而シテ同氏ガカ、ル提案ヲナスニ至ツタノハ『蒸溜水一立方糎ガ攝氏四度ノ溫度ヲ有スル真空中ニ於ケル重サハ絕對ニ永久ニ不動』ナルガ爲メニ『此方法ヲ新貨幣ニ應用シテ問題ヲ解決セント欲』(二一八頁)シタルニ外ナラナイ、思ヘバ隨分大膽ナ話デアルト云ハチバナラヌ。

單刀直入ニ云ヘバ伊藤氏ノ以上ノ所說ニハ二箇ノ大ナル誤謬ガ含レテ居ル、(第一)ハ金ノ價值ヲ以テ絕對的ノモノデアルト思惟シテ居ルコトデアツテ(第二)ハ重量ノ基準ヲ新貨幣ノ原基ニ應用シタコトデアル。

第一 窃カニ思フニ金ノ價值トハ相對的價值 (Relative value) デアツテ絕對的價值 (Absolute value) デハナイ、金ノ價值ヲ計ルニハ他ノ貨物ヲ以テスルノデアツテ換言スレバ金ト交換スル貨物ノ量ノ大小ニヨリテ金ノ價值ノ大小ヲ判ズルノデアル、即チ絕對的價值ノ標準デハナイノデアル、而シテ金ノ購買力トハ金ノ交換價值ノ謂ニ外ナラナイカラ金ノ購買力モ亦絕對不變ノモノデハナイ否ナ絶ヘズ變動シテ止マナイモノデアアル、而シテ購買力ノ大小ハ之レニ對シテ交換セラル、他ノ貨物量ノ大小ニヨリテ判斷セラル、ノデアアルカラ或ル瞬間ニ於ケル購買力ガ次ノ瞬間ニ於ケル購買力

ト異ツタ場合ニ、ソハ果シテ金自身ノ價值ノ變動ニヨルカ又ハ之レト交換セラル、貨物ノ價值ノ變動ニヨルカハ之レヲ判定スルニ容易デナイ、雷ニ容易デナイ許リデナク全ク不可能デアルト云ハチバナラナイ、從ツテ其變動ヨリ生ジタル購買力ノ差異ハ如何ニ之レヲ計算スベキカノ標準ヲ見出スコトガ出來ナイ、即チ金ノ購買力ヲ測定スベキ不變ノ秤ガナイノデアル。例ヘバ大正二年一月一日ニ金一匁ノ五分ノ一ガ白米五升ト交換シ得ルトシ、之レヲ原基ト定メテ壹圓ト呼ブモ大正三年一月一日ニ至リテ金一匁ノ五分ノ一ハ僅カニ白米四升ト交換シ得ルニ至リタリトスレバ其原因ハ金ノ價值ノ下落ニヨルカ又ハ米ノ產出不足ニヨルカヲ知ルコト難イ若シ兩々相俟ツテ此勢ヲ誘起シタルモノトスレバ其中ノ幾分ハ金ノ原因ニヨリ、幾分ハ米ノ原因ニヨルカヲ測定スルコトガ出來ナイ、然ラバ大正二年一月一日ノ金一匁ノ五分ノ一ガ有スル購買力ヲ壹圓ト呼ブモ大正三年一月一日ニ於ケル同量ノ金ガ有スル購買力ヲ幾何ト定ムベキカヲ知ルコトガ出來ナイ、是レ蓋シ金ノ價值ハ相對的ノモノノデアツテ絕對的ノモノデナイ、從ツテ金ノ購買力ニ相對的デアツテ絕對的デナイガ爲メデアル。『金ト云ヒ銀ト云ヒ將タ珠玉貝殼布帛錫環椰子實ト云フモ一種ノ貨物ヲ指スニアラズヤ』(二四頁)ト云ツテ居ル同氏ハ金ガ一種ノ貨物ナルコト、從ツテ他ノ貨物ト同様ニ種々ノ事情ニヨリテ價值ニ變動アルコト即チ金ガ絕對的價值ノ標準ニアラザルコトハ明カニ認メチバナラヌ筈デアルニ拘ラズ尙ホ『法律ノ力ヲ借りテ單位ヲ定メ而シテ單位ノ價值ノ標準トスル原基ヲ不變ノモノトセントスルニアリ』(二六頁)ト云ヒ、更ニ又、

新貨幣ガ斯クハ如クニシテ定メラレタル以上貨幣價值即チ貨幣ノ購買力ハ一定不變ナリサレバ一定時ニ一定額ノ貨幣ガ購ヒ得タル貨物ノ一定額ハ貨物ノ價值ニ變化ナキ限り常ニ正比例ヲ以テ進ムベキハ前節終リニ述ベタル如キナリ、若シソレ以前ヨリモ多額ノ貨幣ヲ支拂ハザレバ同一額ノ貨物ヲ得ラズトスレバソハ明カニ貨物ノ價值ノ騰貴ナリ若シ然ラズシテ以前ヨリモ少額ノ貨幣ヲ以テ同一額又ハソレ以上ノ貨物ヲ得ルトセバソハ又明ニ貨物ノ價值ノ下落ナリ。(一一七頁)

ト云ツテ金ノ價值ノ絶對的デアルコトヲ前提トシタル議論ヲヤツテ居ル蓋シ『以前ヨリモ』ト云フ時ノ經過ヲ意味スル文字ヲ用ヒナガラ尙ホ頻リニ『一定時』ト云フ文字ヲ繰返ス所ヲ以テ見レバ同氏ハ或ル一定時ニ於テ法律ノ力ヲ以テ金ノ價值ヲ決定スレバ其後時ノ經過スルニ際シテモ其價值ハ不變ナモノデアルト思惟スルノダト見ルヨリ外ハナイカラデアル、思フニ斯クノ如キハ一定時ト云フ文字ニ眩惑セラレタル一種ノ迷想ニ過ギマイ、例令法律ノ力ヲ以テ何ト定メタ所デ絶對的ナラザルモノ、價值ハ四圍ノ狀況ノ推移ト共ニ變動セズニハ居ラレナイ、カ、ル誤謬ニ陥ツタノモ要スルニ金ニハ絶對的價值ガアルト思ツテ居ルカラデアル、若シ金モ尙一種ノ貨物タルコトヲ認メテ居ル氏ハ金ニ絶對的價值アルヲ認メテ居ナイノデアルト氏ノ爲メニ辯護スル者ガアレバ予ハ然ラバ同氏ガカル結論ニ到着シタル理由ヲ見出スニ苦シムト答ヘタイ、尤モ茲ガ誤謬ニ陥リタル眞ノ原因ノ伏在スル所カモ知レナイ。

第二 予ノ見テ以テ誤謬ナリトナス第二ノ點ハ重量ノ基準ト價值ノ原基トヲ同一ノモノトシテ

取扱ツタ所ニアル、思フニ『蒸溜水一立方糎ガ攝氏四度ノ溫度ヲ有スル眞空中ニ於ケル重サハ絶對ニ永久ニ不動』デアル即チ其重サハ絶對的デアル、然シ蒸溜水一立方糎モ空氣中ニ於ケル重サハ絶對的デナク、空氣ノ密度ニヨリテ變動シテ止マナイ其絶對的デアルト云フノハ唯攝氏四度ノ溫度ヲ有スル眞空中ニ於テノミデアル、今之レヲ新貨幣ニ應用シテ見ルニ金ノ價值ハ前述ノ如ク絶對的デナクシテ相對的デアル、恰カモ蒸溜水ヲ空氣中ニ置クト同様デアツテ四圍ノ狀況ノ變動ト共ニ其價值ハ變動シテ止マナイ、假令大正二年一月一日ニ金一匁ノ五分ノ一ガ白米五升、牛肉五百匁、鹽十貫匁ト交換シ得ル場合ニ之レヲ原基ト定メテ圓ト呼ンデモ經濟界ノ變動ハ日々ニ激シクシテ再ビ攝氏四度ノ溫度ヲ有スル眞空ヲ經濟界ニ作ルコトハ出來ナイ、從ツテ金ノ價值ニ變動ヲ來シタリヤ否ヤヲ計ル絶對的標準ハ重サノ場合ノ如クニ之レヲ定ムルコトガ出來ナイ、故ニ重サノ標準ト價值ノ標準トハ性質上同一ニ論ズベキモノデハナイト云フノデアル、是レ薄弱ナル新貨幣ノ基礎ト稱シテ予ノ贊同シ能ハズトナス所以デアル。

四 矛盾セル新貨幣ノ制度

已ニ本論ノ根本問題タル新貨幣ノ基礎ニ對シテ斧鉞ヲ加ヘタル予ハ一種ノ謬想ノ上ニ成立シタル新貨幣ノ制度ニ對シテハ最早ヤ多言ヲ費ヤスノ必要ヲ認メナイノデアルガ『新貨幣ハ法定貨幣ナルヲ以テ如何ナル材料ニヨリ製作サレテモ差支ナキナリ、然リト雖從來ノ習慣、材料ノ廉價、製作ノ容易、携帶ノ便利等ヨリシテ紙幣制度ハ最モ適當ナリ（一一八頁）トシ』更ニ不換紙幣ヲ排シテ『兌換

制度ヲ採用シ社會ノ輿望ニ適合セント欲シ』遂ニ新貨幣ノ制度ヲ要言シテ、

此兌換制度ハ從來ノ如ク金貨兌換ニアラズシテ一般財物兌換トス、サレバ從來準備トシタル金銀モ商業手形モ有價證券モ準備トシテ可ナル理由ナリ、サレド出來得ベクンバ金銀ヲ廢シテ商業手形及短期ノ社債券又ハ政府證券ヲ以テ是レニ當テントス何トナレバタトヘ金銀ガソノ價值高貴ニシテ容積如何ニ少ナリト雖手形又ハ證券ニ比シテ保存ノ手數ヲ要スンバナリ。(一一九頁)

ト云フ大膽ナル所論ニ對シテ到底一顧ナシニ筆ヲ擱クニ忍ビナイノデアル。

思フニ商業手形ト云ヒ、社債券ト云ヒ、將タ政府證券ト云ヒ、何レモ將來ノ或時ニ於テ一定ノ貨幣量ヲ仕拂フベシト云フ仕拂ノ委託又ハ仕拂ノ約束ニ對スル證券デアル、從テツ此等諸證券ノ發生ハ一定ノ貨幣制度ノ存在ヲ前提トスル、サレバ『金銀ヲ廢シテ商業手形及短期ノ社債券又ハ政府證券ヲ以テ』兌換ニ對スル仕拂準備ニ當テントスルノハ、ソレ自身一箇ノ矛盾デアルト云ハチバナラヌ。

成ル程、我ガ現時ノ兌換制度ニヨレバ正貨準備ノ外ニ壹億貳千萬圓(?)マデハ保證準備デモヨイ又大藏大臣ノ許可ヲ得テ五分以上カノ發行稅ヲ納ムレバ制限外發行モスルコトガ出來ル、然レドモ保證準備ヲ以テ發行スル壹億貳千萬圓ト云フ兌換券ハ我國ノ現狀カラ見テ如何ナル場合ニモ兌換ノ請求ニ來ラザルベキ最少ノ程度デアルカラ之レガ準備トシテ正貨ヲ所有セザルモ些ノ差支ヲ來サナ

イノデアルガツレ以上ハ時ニ兌換ノ請求ニ逢フコトガナイトモ限ラナイカラ常ニ正貨ヲ以テ之レガ準備ニ當テシムルノ必要ガアルノデアル、而シテ正貨ガ何人ニモ喜バレテ信用最モ大ナルハ要スルニ正貨ハ最後ノ價值ヲ表示スルモノデアツテ何人モ之レガ受授ヲ拒マズ、如何ナル場合ニ於テモ如何ナルモノニ比シテモ交換價值ノ最モ大ナルガ爲メデアル。

サレバ金銀ヲ廢シテ諸證券ノミヲ以テ仕拂準備ニ當テントスル制度ハ前述ノ如クソレ自身一個ノ矛盾デアアル許デナク、カ、ル證券ヲ準備トシテ發行シタル兌換券ハ恐ラク何人モ之ガ受授受ヲ好マナイダラウト思フ、蓋シ兌換券仕拂ノ準備タル諸證券ハソレ自身價值デハナイカラデアル。

五 結 論

要スル貨幣ノ將來ニ關スル問題ハ重大ナル問題デアツテ予輩黃口兒ノ濫リニ容喙スベキ所デハナイガ兎ニ角、伊藤氏ノ貨幣案ニ對シテハ其基礎ノ薄弱ナルト制度ノ矛盾セルノ二點ニ於テ到底賛同スルコトガ出來ナイカラ業餘、秃筆ヲ呵シテ同氏ノ一顧ヲ煩ハシタ次第デアル、若シ同氏ニシテ吾人ヲ首肯セシメントナラバ更ニ秩序アル説明ト具體的ノ提案トヲ持來サナケレバナラナイ。

以上ノ批評文ヲ草スルニ當リ未ダ拜眉ノ榮ヲモ得ザル伊藤氏ニ對シ禮ヲ失スルコトヲ恐レテ成ルベク嘲弄的文字ヤ輕侮的言句ヲ避ケテ卒直簡明ニ自己ノ思フ所ヲ表示スルコトニ努メタ、而シテ若論爭ヲナスナラバ文字ノ揚足取りヤ、罵詈譏誣ヲ事トシナイデ只管所論ノ根本ニ就テ爭イタイト思

フテ成ルベク些末ノ點ヲ捨テタ、然レドモ以上ノ蕪辭若シ禮ニ於テ缺クル所ガアレバソハ予ガ眞面目ヨリ出デタル言葉ナリトシテ偏ニ同氏ノ寛恕ヲ切望シテ止マナイ。(大正三年一月二十日天下茶屋ニ於テ)